

UNIVERSAL PASSPORT RX

| | | | | | | |
|---|---------|--------------------|------|-----|------------|---------------------|
| 授業コード | 科目名 | 専門演習 | | | 担当教員 | 清水 かおり |
| jgygn239 | 科目名 (英) | Seminar in Nursing | | | E-mail | kaoris@meio-u.ac.jp |
| 単位数 | 受講年次 | 開講学期 | 登録人数 | 研究室 | オフィスアワー | 時間割 |
| 4単位 | 学年指定なし | 前学期 | 1~2 | 看研6 | 月曜日・木曜日 6限 | 金曜日4限目、金曜日7限目 |
| 1. 授業の概要 | | | | | | |
| 看護学教育、基盤看護学分野特論Ⅰ（看護教育学領域）、基盤看護学分野特論Ⅱ（看護教育学領域）、看護学教育分野における研究の動向を踏まえ、学生の関心あるテーマに即した研究を進めるための方法を指導する。国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み、適切な研究方法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などを指導し、研究計画書の作成までを1年次で行えるよう学生の研究経験に合わせた個別指導をする。 | | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | | |
| 1) 論文読解能力を高め、多様な研究方法を理解する。 2) 看護教育学領域における研究課題を発見し、看護教育の向上と発展へどのように貢献できるかを検討する。 3) 研究課題に関して適切な研究デザインならびに研究方法を選択する。 4) 一貫性・整合性のある研究計画書の作成手順を学ぶ。 5) 倫理審査申請書の作成を通して、研究における倫理的感性を高める。 | | | | | | |
| 3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性 | | | | | | |
| 4. 授業計画と内容 | | | | | | |
| 第1週 修士論文とは、修士論文作成のプロセス 第2週 テーマ設定と関連文献の検索 第3週 文献検索と文献検討 ① 第4週 文献検索と文献検討 ② 第5週 研究デザインとは、研究デザイン構築 第6週 研究デザインの構築 ① 第7週 研究デザインの構築 ② 第8週 研究デザインの構築 ③ 第9週 統計学的手法の理解 ① 第10週 統計学的手法の理解 ② 第11週 研究計画書の作成 ① 第12週 研究計画書の作成 ② 第13週 研究計画書の作成 ③ 第14週 倫理審査申請書の作成 ① 第15週 倫理審査申請書の作成 ② | | | | | | |
| 5. テキスト・参考文献 | | | | | | |
| 看護研究方法論で使用したテキスト：「看護研究 原理と方法」 監訳 近藤潤子 医学書院 「APA論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院 「ヘルスケアに生かすアクションリサーチ」岡本玲子他訳 医学書院 「考具」加藤昌治著 阪急コミュニケーションズ | | | | | | |
| 6. 準備学習 | | | | | | |
| 授業内容に該当するテキスト、資料を講読する。文献クリティーク、研究計画書の作成などの課題の提出をする。 | | | | | | |
| 7. 成績評価の方法 | | | | | | |
| 課題の内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成） 20点 授業中の活動（評価視点：コミットメント、課題探求への姿勢、プレゼンテーションの適切さ） 20点 研究計画書の作成（評価視点：計画書の内容、研究方法の妥当性、倫理性への配慮の記載） 60点 合計100点満点 | | | | | | |
| 8. 履修の条件 | | | | | | |
| 看護研究方法論（1前）、看護学教育（1前）、基盤看護学分野特論Ⅰ（1前）、基盤看護学分野特論Ⅱ（1後）を履修済、あるいは履修中であること。 | | | | | | |
| 9. その他 | | | | | | |
| 修士論文作成の重要な科目であり、特別研究に継続する。 | | | | | | |

UNIVERSAL PASSPORT RX

| | | | | | | |
|---|---------|--------------------|------|------|---------|---------------------|
| 授業コード | 科目名 | 専門演習 | | | 担当教員 | 永田 美和子 |
| jgygn243 | 科目名 (英) | Seminar in Nursing | | | E-mail | miwako@meio-u.ac.jp |
| 単位数 | 受講年次 | 開講学期 | 登録人数 | 研究室 | オフィスアワー | 時間割 |
| 4単位 | 学年指定なし | 前学期 | 1~2人 | 新421 | 授業終了後 | |
| 1. 授業の概要 | | | | | | |
| <p>高齢者看護学分野の研究の動向を踏まえ、高齢者の認知機能障害に関する研究指導を主として、学生の関心あるテーマに即した国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み、適切な研究方法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などを指導し、研究計画書の作成までを1年次で行えるよう学生の研究経験に合わせた個別指導をする。</p> <p>研究手法は、調査研究や面接法など、学生の研究テーマに即した量的・質的研究方法を指導する。</p> | | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | | |
| <p>①修士論文の意義について理解し、研究のプロセスを理解できる。</p> <p>②テーマに即した、研究目的、研究デザイン、研究方法、倫理的課題が理解できる。</p> <p>③テーマに即した、研究計画書を作成できる。</p> | | | | | | |
| 3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性 | | | | | | |
| <p>DPの以下の内容に到達できるように討議を中心として学修する内容である。</p> <p>1.科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力</p> <p>2.地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習能力</p> <p>3.地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し多職種と協働し看護を実践する能力</p> <p>4.グローバルな視点で、看護の役割を創造する能力</p> | | | | | | |
| 4. 授業計画と内容 | | | | | | |
| <p>第1回 修士論文とは、修士論文作成のプロセス</p> <p>第2回 テーマ設定と関連文献の検索</p> <p>第3回 文献検索と文献検討 ①</p> <p>第4回 文献検索と文献検討 ②</p> <p>第5回 研究枠組みの構築</p> <p>第6回 研究デザインの構築</p> <p>第7回 研究方法の構築</p> <p>第8回 研究方法の構築</p> <p>第9回 統計学的手法の理解 ①</p> <p>第10回 統計学的手法の理解 ②</p> <p>第11回 研究計画書の作成 ①</p> <p>第12回 研究計画書の作成 ②</p> <p>第13回 研究計画書の作成と受審③</p> <p>第14回 倫理審査申請書の作成 ①</p> <p>第15回 倫理審査申請書の作成 ②</p> | | | | | | |
| 5. テキスト・参考文献 | | | | | | |
| <p>テキスト：看護研究方法論で使用したテキスト 「バーンズ&グローブ 看護研究入門 第7班」黒田裕子、中木高夫、逸見功監修 「APA論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院</p> <p>参考文献：適宜紹介します</p> | | | | | | |
| 6. 準備学習 | | | | | | |
| 授業内容に該当するテキスト、資料を講読する。文献クリティーク、研究計画書の作成などの課題の提出をする。 | | | | | | |
| 7. 成績評価の方法 | | | | | | |
| <p>課題の内容 50点 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成)</p> <p>研究計画書の作成 50点 (評価視点：計画書の内容、研究方法の妥当性、倫理性への配慮の記載)</p> <p>合計 100点満点</p> | | | | | | |
| 8. 履修の条件 | | | | | | |
| 看護研究方法論 (1前) 臨床看護学特論Ⅰ (1前)、臨床看護学特論Ⅱ (1後) を履修済、あるいは履修中であること。 | | | | | | |
| 9. その他 | | | | | | |
| <p>自分のテーマに関係する文献のクリティークを積極的に行い、先行研究の理解、自分の意見・見解のプレゼンテーションの準備を十分に行うこと。事前準備状況によっては、シラバスの変更はあります。</p> <p>自立して研究を進められるようにすること。</p> | | | | | | |

UNIVERSAL PASSPORT RX

| | | | | | | |
|--|--------|--------------------|------|-------|------------|-------------------------|
| 授業コード | 科目名 | 専門演習 | | | 担当教員 | 村上満子 |
| jgygn250 | 科目名(英) | Seminar in Nursing | | | E-mail | m.murakami@meio-u.ac.jp |
| 単位数 | 受講年次 | 開講学期 | 登録人数 | 研究室 | オフィスアワー | 時間割 |
| 4単位 | 学年指定なし | 前学期 | 1 | 研究室 8 | 火曜日・金曜日の7限 | |
| 1. 授業の概要 | | | | | | |
| 精神看護学特論Ⅰと精神看護学特論Ⅱ, 精神看護学分野における研究の動向を踏まえ, 学生自身が関心あるテーマに即した研究を進めるための方法について学習する。国内外の論文のクリティークを重ねて, 研究課題を絞り込み, 適切な研究方法を検討し, 研究の背景, 文献検討, 研究目的, 研究デザイン, 具体的な研究方法, 倫理的配慮などについて学び, 研究計画書を作成する。そのプロセスにおいて, 適切なフィールドの選定, 倫理的配慮, 看護実践記録やフィールドの十分な記録, 適切な分析方法等を検討する。自己の研究課題や研究方法の追及過程については, 演習授業において発表し, 討議を行う。 | | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | | |
| ①論文読解能力を高め, 多様な研究方法を理解する。 ②精神看護領域における研究課題を発見し, 精神看護の向上と発展にどのように貢献できるかを検討する。 ③研究課題に関して適切な研究デザインならびに研究方法を選択する。 ④研究課題にもとづき, 研究計画書を作成する一連の過程を通して, 一貫性・整合性のある研究計画書の作成手順を学ぶ。 ⑤倫理審査申請書の作成を通して, 研究における倫理的感性を高める。 | | | | | | |
| 3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性 | | | | | | |
| DPの以下の能力(特に, 1, 2, 4)を身につけるようにプレゼンテーションと討議を中心として自身の研究計画を作成する内容である。 1.科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 2.地域社会や看護の課題に取り組み, 看護学の専門性を探求する生涯学習力 3.地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し, 多職種と協働し看護を実践する能力 4.グローバルな視野で, 看護の役割を想像する能力 | | | | | | |
| 4. 授業計画と内容 | | | | | | |
| 第 1 週 専門演習の授業目的, 内容, 方法について概説する 第 2 週 看護研究, 文献検索・講読に関する学術用語および基礎的知識, 文献検討による課題の探求方法について概説する 第 3 週 文献検索および文献入手を図書館にて行った結果を報告し検討する 第 4 週 前半(教員による講義)研究デザインについて概説する① 後半(プレゼンテーションとディスカッション) 授業目標に沿い, 講読した精神看護研究に用いられている学術用語, 研究方法, 研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし, 研究の概念枠組みと研究方法論について討論する 第 5 週 前半(教員による講義)研究デザイン構築に向けて概説する① 後半(プレゼンテーションとディスカッション) 授業目標に沿い, 講読した精神看護研究に用いられている学術用語, 研究方法, 研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし, 研究の概念枠組みと研究方法論について討論する 第 6 週 前半(教員による講義)研究デザインの構築について概説する② 後半(プレゼンテーションとディスカッション) 授業目標に沿い, 講読した精神看護研究に用いられている学術用語, 研究方法, 研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし, 研究の概念枠組みと研究方法論について討論する 第 7 週 質的研究方法について概説する 第 8 週 前半(教員による講義)質的研究方法で用いられるアプローチについて概説する 後半(プレゼンテーションとディスカッション) 各自の研究課題に関する文献の中で質的研究方法を用いた文献における研究法について検討する 第 9 週 統計的手法について概説する① 第10週 前半(教員による講義)統計学的手法について概説する② 後半(プレゼンテーションとディスカッション) 各自の研究課題に関する文献の中で量的研究方法を用いた文献における研究法について検討する 第11週 前半(教員による講義)研究計画書の作成について概説する ① 後半(プレゼンテーションとディスカッション) 各自の研究課題に関する研究計画について検討する 第12週 前半(教員による講義)研究計画書の作成について概説する ② 後半(プレゼンテーションとディスカッション) 各自の研究課題に関する研究計画について検討する 第13週 前半(教員による講義)研究計画書の作成について概説する ③ 後半(プレゼンテーションとディスカッション) 各自の研究課題に関する研究計画について検討する 第14週 倫理審査申請書の作成と倫理審査受審について概説する 第15週 前半(プレゼンテーションとディスカッション) 各自の研究課題に関する倫理的配慮のポイントについて発表, 検討する 後半(教員による講評) まとめ | | | | | | |
| 5. テキスト・参考文献 | | | | | | |
| ・バーンズ&グロブ 看護研究入門 原著第7版 一評価・統合・エビデンスの生成, デンスの生成,(2015), Suzan K. Grove, Nancy Burns & ennifer R. Gray著, 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功翻訳, エルゼビア・ジャパン; 原著第7版。 ・ Nancy Burns, Susan,K. Grove(2020)The Practice of Nursing Research : Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence ; 9th ed. Saunders 参考文献 ・ Matthew B. Miles,A. M. Huberman(2013) Qualitative Data Analysis: A Methods Sourcebook ; Third ed.Sage Publications, Inc. | | | | | | |
| 6. 準備学習 | | | | | | |
| 毎回, 課題を課すので準備してくること。 | | | | | | |
| 7. 成績評価の方法 | | | | | | |
| ・ 課題の内容(評価視点: テーマとの整合性, 論理的な文章構成) 20点 ・ 授業中の活動(評価視点: コミットメント, 課題探求への姿勢, プレゼンテーションの適切さ) 20点 ・ 研究計画書の作成(評価視点: 計画書の内容, 研究方法の妥当性, 倫理性への配慮の記載) 60点 合計100点満点 | | | | | | |
| 8. 履修の条件 | | | | | | |
| 看護研究方法論(1前), 臨床看護学特論Ⅰ(1前), 臨床看護学特論Ⅱ(1後)を履修済, あるいは履修中であること。 | | | | | | |
| 9. その他 | | | | | | |
| 特になし | | | | | | |

UNIVERSAL PASSPORT RX

| | | | | | | |
|---|---------|--------------------|------|------------|-----------|-----------------------|
| 授業コード | 科目名 | 専門演習 | | | 担当教員 | 田場 真由美 |
| jgygn257 | 科目名 (英) | Seminar in Nursing | | | E-mail | m.tabata@meio-u.ac.jp |
| 単位数 | 受講年次 | 開講学期 | 登録人数 | 研究室 | オフィスアワー | 時間割 |
| 4単位 | 学年指定なし | 後学期 | 1~2名 | 看護学研究室 1 5 | 金曜日1, 2限目 | 木曜日1, 2限目 |
| 1. 授業の概要 | | | | | | |
| <p>公衆衛生看護学特論Ⅰと公衆衛生看護学特論Ⅱ、公衆衛生看護学分野における研究の動向を踏まえ、学生自身が関心あるテーマに即した研究を進めるための方法について学習する。国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み、適切な研究方法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などについて学び研究計画書を作成する。そのプロセスにおいて、適切なフィールドの選定、倫理的配慮、看護実践記録やフィールドの十分な記録、適切な分析方法等を検討する。自己の研究課題や研究方法の追及過程については、演習授業において発表し討議を行う。</p> | | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | | |
| <p>①論文読解能力を高め、多様な研究方法を理解する。 ②公衆衛生看護領域における研究課題を発見し、公衆衛生看護の向上と発展にどのように貢献できるかを検討する。 ③研究課題に関して適切な研究デザインならびに研究方法を選択する。 ④研究課題にもとづき、研究計画書を作成する一連の過程を通して、一貫性・整合性のある研究計画書の作成手順を学ぶ。 ⑤倫理審査申請書の作成を通して、研究における倫理的感性を高める。</p> | | | | | | |
| 3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性 | | | | | | |
| <p>科目と関連があるDP</p> <p>1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習力 3. 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力 4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力</p> | | | | | | |
| 4. 授業計画と内容 | | | | | | |
| <p>※1 授業日程は時間割確定後に変更する可能性があります。 ※2 授業形式は、対面式授業と遠隔授業を併用し実施します。 ※3 資料や課題はこれまで通りに、teamsとユニバーサルパスポートを活用し学生へ電子資料を配布します。</p> <p>第1回 修士論文とは、作成過程について概説する 第2回 看護研究、文献検索・講読に関する学術用語および基礎的知識、文献検討による課題の探求方法について概説する 第3回 文献検索と文献検討① 文献検索および文献入手のために図書館を活用した結果を報告し検討する 第4回 文献検索と文献検討② 第5回 研究デザインの構築① 講読した公衆衛生看護研究に用いられている学術用語、研究方法、研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし、研究の概念枠組みと研究方法論について討論する 第6回 研究デザインの構築② 講読した公衆衛生看護研究に用いられている学術用語、研究方法、研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし、研究の概念枠組みと研究方法論について討論する 第7回 質的研究方法の理解① 第8回 質的研究方法の理解② 各自の研究課題に関する文献の中で質的研究方法を用いた文献における研究法について検討する 第9回 統計学的手法の理解① 第10回 統計学的手法の理解② 各自の研究課題に関する文献の中で量的研究方法を用いた文献における研究法について検討する 第11回 研究計画書の作成① 第12回 研究計画書の作成② 第13回 研究計画書の作成③ 第14回 倫理審査申請書の作成と倫理審査受審について概説する 第15回 前半(プレゼンテーションとディスカッション) 各自の研究課題に関する倫理的配慮のポイントについて発表、検討する 後半(教員による講評) まとめ</p> | | | | | | |
| 5. テキスト・参考文献 | | | | | | |
| <p>D.F.ポーリット&C.Tベック,近藤潤子(監訳):看護研究 原理と方法 第2版、医学書院、2016。 APA 江藤裕之他訳:APA論文作成マニュアル、医学書院、2004。 市原清志:バイオサイエンスの統計学 南江堂、1990。 安田裕子、サトウタツヤ:TEMでわかる人生の径路 質的研究の新展開,誠信書房,2012。</p> <p>参考文献 前田樹海,江藤裕之:APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール、医学書院、2017。</p> | | | | | | |
| 6. 準備学習 | | | | | | |
| <p>授業内容に該当するテキスト,資料を講読する。文献クリティーク,研究計画書の作成などの課題の提出をする。</p> | | | | | | |
| 7. 成績評価の方法 | | | | | | |
| <p>課題の内容 (評価視点:テーマとの整合性, 論理的な文章構成) 20点 授業中の活動 (評価視点:コミットメント, 課題探求への姿勢, プレゼンテーションの適切さ) 20点 研究計画書の作成 (評価視点:計画書の内容, 研究方法の妥当性, 倫理性への配慮の記載) 60点 合計100点満点</p> | | | | | | |

| |
|---|
| 8. 履修の条件 |
| 看護研究方法論（1前）、臨床看護学特論Ⅰ（1前）、臨床看護学特論Ⅱ（1後）を履修済、あるいは履修中であること。 |
| 9. その他 |
| 特になし |

UNIVERSAL PASSPORT RX

| | | | | | | |
|--|---------|--------------------|------|------|---------|---------------------|
| 授業コード | 科目名 | 専門演習 | | | 担当教員 | 大城 凌子 |
| jygn271 | 科目名 (英) | Seminar in Nursing | | | E-mail | ryouko@meio-u.ac.jp |
| 単位数 | 受講年次 | 開講学期 | 登録人数 | 研究室 | オフィスアワー | 時間割 |
| 4単位 | 学年指定なし | 後学期 | 1~2 | 看研13 | 月曜日4・5限 | |
| 1. 授業の概要 | | | | | | |
| 在宅看護学特論Ⅱの講義や、在宅看護学分野の研究の動向を踏まえ、国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題の絞り込み、適切な研究方法の検討、研究背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、倫理的配慮などを学修し、研究計画書の作成までを1年次で行えるよう学生の経験に合わせた方法により指導する。研究分野としては、沖縄における文化を活かした高齢者への援助や看取り、住民の健康増進活動や参加する学生への教育などのテーマに関する指導を主に行い、アクションリサーチや質的、量的研究方法論を指導する。 | | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | | |
| ①修士論文作成に向けた研究のプロセスを理解できる。 ②研究テーマの選定、絞り込み、研究デザインの選定、具体的な研究方法について理解し、研究計画書が作成できる。 ③倫理的判断の必要性について理解し、倫理審査申請書が作成できる。 | | | | | | |
| 3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性 | | | | | | |
| 本科目の到達目標は研究科のDPと密接に関連している。到達目標の1)～3)を達成することで「科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力」、「地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習力」、「地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力」、「看護の役割を創造する能力」を身に付けることができる。 | | | | | | |
| 4. 授業計画と内容 | | | | | | |
| 第1週 修士論文とは、修士論文作成のプロセス 第2週 テーマ設定と関連文献の検索 第3週 文献検索と文献検討 ① 第4週 文献検索と文献検討 ② 第5週 研究デザイン構築 第6週 質的研究法の理解 ① 第7週 質的研究法の理解 ② 第8週 質的研究法の理解 ③ 第9週 統計学的手法の理解 ① 第10週 統計学的手法の理解 ② 第11週 研究計画書の作成 ① 第12週 研究計画書の作成 ② 第13週 研究計画書の作成 ③ 第14週 倫理審査申請書の作成 ① 第15週 倫理審査申請書の作成 ② 第16週 倫理審査申請書の作成 ③ | | | | | | |
| 5. テキスト・参考文献 | | | | | | |
| 「APA論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書 「フィールドワークの技法」佐藤郁也 新曜社 | | | | | | |
| 6. 準備学習 | | | | | | |
| この科目の履修は特別研究に継続するため、主体的に課題に取り組み参加すること。 | | | | | | |
| 7. 成績評価の方法 | | | | | | |
| 研究計画書の発表、提出および倫理申請書類の作成、倫理申請結果を踏まえ最終評価する。 課題の内容 (評価視点: テーマとの整合性, 論理的な文章構成) 50点 研究計画書の作成 (評価視点: 計画書の内容, 研究方法の妥当性, 倫理性への配慮の記載) 50点 合計100点 | | | | | | |
| 8. 履修の条件 | | | | | | |
| 看護研究方法論 (1前), 臨床看護学特論Ⅰ (1前), 臨床看護学特論Ⅱ (1後) を履修済, あるいは履修中であること。 | | | | | | |
| 9. その他 | | | | | | |
| 感染対策を講じた上で、原則として対面 (状況に応じてon-lineも可) で講義を行うが、コロナウイルス感染拡大の状況に応じて、講義形態は変更の場合がある。 ※シラバスはクラスの状態、講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。 | | | | | | |

UNIVERSAL PASSPORT RX

| | | | | | | |
|--|---------|--------------------|------|---------|-----------|-----------------------|
| 授業コード | 科目名 | 専門演習 | | | 担当教員 | 木村 安貴 |
| jygn278 | 科目名 (英) | Seminar in Nursing | | | E-mail | y.kimura@meio-u.ac.jp |
| 単位数 | 受講年次 | 開講学期 | 登録人数 | 研究室 | オフィスアワー | 時間割 |
| 4単位 | 学年指定なし | 後学期 | 2名 | 新研究棟426 | 火曜日・金曜日7限 | 木7限、金7限 |
| 1. 授業の概要 | | | | | | |
| 臨床看護学特論Ⅰ、看護学研究方法論Ⅰ、Ⅱを通して、臨床看護分野での主に関がん看護の研究の動向を踏まえ、学生が関心のある研究課題に関連した国内外の文献クリティークを行う。文献クリティークを通して、研究手法、計画作成および論文作成過程を学ぶ。先行研究を読み込み、研究課題の絞込みを行い、倫理的配慮に基いた研究計画書の作成を行う。 | | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | | |
| ① 文献クリティーク方法を理解し、実践できる。 ② 研究課題に関連した研究デザイン・研究手法を理解することができる。 ③ 研究課題を見つけ、絞り込むプロセスを経て、決定することができる。 ④ 倫理的配慮に基いた、看護学領域の発展につながる研究計画書を作成できる。 | | | | | | |
| 3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性 | | | | | | |
| DP1：先行研究の文献を探索し、批判的に読み解くことにより、科学的思考に基づいた判断能力、問題解決能力を養うことができる。 DP2、4：研究において、国内外および地域の課題やそれを解決するための戦略を把握することで、地域の特性を踏まえた住民の保健医療ニーズを捉えることが出来る。 DP3：研究テーマを検討するなかで、自分の専門性を探究し、生涯学び続ける力を身につけることが出来る。 | | | | | | |
| 4. 授業計画と内容 | | | | | | |
| 第1週 修士論文とは、修士論文作成のプロセス 第2週 文献検索方法と文献リスト作成方法の理解 第3週 文献クリティーク① 第4週 文献クリティーク② 第5週 文献クリティーク③+量的研究デザインの理解 第6週 文献クリティーク④+量的研究における分析手法の理解 第7週 文献クリティーク⑤+質的研究デザインの理解 第8週 文献クリティーク⑥+質的研究における分析手法の理解 第9週 研究テーマに関する先行研究の検討 第10週 研究テーマの絞込み 第11週 研究計画書+倫理審査申請書の作成 ① 第12週 研究計画書+倫理審査申請書の作成 ② 第13週 研究計画書+倫理審査申請書の作成 ③ 第14週 研究計画書+倫理審査申請書の作成 ④ 第15週 研究計画書+倫理審査申請書の作成 ⑤ | | | | | | |
| 5. テキスト・参考文献 | | | | | | |
| Denise F. Polit , Cheryl Tatano Beck (2004)/近藤潤子 監訳 (2010)：看護研究 原理と方法, 医学書院, 東京. APA (2010)/江藤裕之他 訳(2011)：APA論文作成マニュアル (第2版), 医学書院, 東京. 参考文献：適宜提示する | | | | | | |
| 6. 準備学習 | | | | | | |
| 第2～8週 文献クリティークにおいては、授業前までに文献の準備とクリティークシートの作成 第9～10週 研究テーマに関連した文献レビューの作成 | | | | | | |
| 7. 成績評価の方法 | | | | | | |
| 文献クリティーク (評価の視点：研究課題に関連した文献であるか、クリティークスキル) 20点 研究課題絞込み (評価の視点：研究課題に関連した先行研究検討を行い、研究の意義を明確にするプロセス) 30点 研究計画書の作成 (評価の視点：簡潔・明快性、一貫性、新規性、完遂性、倫理的配慮) 50点 合計100点満点 | | | | | | |
| 8. 履修の条件 | | | | | | |
| 履修の条件：看護研究方法論Ⅰ、看護学研究方法論Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ (がん看護領域)、臨床看護学特論Ⅱ (がん看護領域)を履修済、あるいは履修中であること。 | | | | | | |
| 9. その他 | | | | | | |
| 修士論文作成の重要な科目であり、特別研究に継続する。 | | | | | | |

UNIVERSAL PASSPORT RX

| | | | | | | |
|--|---------|--------------------|------|-----|-------------|----------------------|
| 授業コード | 科目名 | 専門演習 | | | 担当教員 | 玉井 なおみ |
| jgygn285 | 科目名 (英) | Seminar in Nursing | | | E-mail | n.tamai@meio-u.ac.jp |
| 単位数 | 受講年次 | 開講学期 | 登録人数 | 研究室 | オフィスアワー | 時間割 |
| 4単位 | 学年指定なし | 後学期 | 1~2 | 看研5 | 火曜日5限・木曜日5限 | 火6限、金7限 |
| 1. 授業の概要 | | | | | | |
| <p>がん看護学分野の研究の動向を踏まえ、院生が関心のあるテーマに即した研究を進めるための方法を学習する。国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み、適切な研究方法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などについて学び、研究計画書を作成する。そのプロセスにおいて、適切なフィールドの選定、倫理的配慮、データ収集方法、分析方法などを検討する。自己の研究課題や研究方法の追求過程については、演習授業において発表し、討議を行う。実務経験のある教員が担当し、看護研究の意義と方法、科学的思考と看護学の発展と関連づけて理解を深める。</p> | | | | | | |
| 2. 到達目標 | | | | | | |
| <p>① 論文読解能力を高め、多様な研究方法を理解する。 ② がん看護学分野における研究課題を発見し、看護の向上と発展にどのように貢献できるかを検討する。 ③ 研究課題に関して適切な研究デザインならびに研究方法を選択する。 ④ 研究課題に基づき、研究計画書を作成する一連の過程を通して、一貫性・整合性のある研究計画書の作成手順を学ぶ。⑤ 倫理審査申請書の作成を通して、研究における倫理的感性を高める。</p> | | | | | | |
| 3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性 | | | | | | |
| <p>本授業は、看護学研究科博士前期課程の学位プログラムのDPに従い下記について育成する。</p> <p>DP1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 DP2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探究する生涯学習力 DP3. 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析する能力 DP4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力</p> | | | | | | |
| 4. 授業計画と内容 | | | | | | |
| <p>第1回 修士論文とは、修士論文作成のプロセス 第2回 テーマ設定と関連文献の検索 第3回 文献検索と文献検討 ① 第4回 文献検索と文献検討 ② 第5回 研究デザインの構築 ① 第6回 研究デザインの構築 ② 第7回 質的研究手法の理解 ① 第8回 質的研究手法の理解 ② 第9回 統計学的手法の理解 ① 第12回 統計学的手法の理解 ② 第13回 研究計画書の作成 ① 第14回 研究計画書の作成 ② 第15回 研究計画書の作成 ③ 第1回 倫理審査申請書の作成 ① 第1回 倫理審査申請書の作成 ②</p> | | | | | | |
| 5. テキスト・参考文献 | | | | | | |
| <p>テキスト：看護研究方法論で使用したテキスト バーンズ&グローブ／黒田裕子 監訳 (2015)：看護研究入門 第7版, エルゼビア・ジャパン, 東京, APA/ 前田樹海他 訳(2023)：APA論文作成マニュアル (第3版), 医学書院, 東京, 参考文献：適宜提示する</p> | | | | | | |
| 6. 準備学習 | | | | | | |
| 毎回、課題を提示するので、次回までに準備すること。 | | | | | | |
| 7. 成績評価の方法 | | | | | | |
| <p>課題の内容 (評価の視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成) 20点 授業中の活動 (評価の視点：コミットメント、課題探究への姿勢、プレゼンテーションの適切さ) 20点 研究計画書の作成 (評価の視点：研究計画書の内容、研究方法の妥当性、倫理的配慮の記載) 60点 合計100点満点</p> | | | | | | |
| 8. 履修の条件 | | | | | | |
| 看護学研究方法論Ⅰ, 看護学研究方法論Ⅱ, 臨床看護学特論Ⅰ (がん看護領域), 臨床看護学特論Ⅱ (がん看護領域)を履修済, あるいは履修中であること。 | | | | | | |
| 9. その他 | | | | | | |
| 修士論文作成の重要な科目であり、特別研究に継続する科目であるため、積極的な参加を期待する。 | | | | | | |